

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3720883号

(P3720883)

(45) 発行日 平成17年11月30日(2005.11.30)

(24) 登録日 平成17年9月16日(2005.9.16)

(51) Int.Cl.⁷

B60R 13/04

F I

B60R 13/04

A

請求項の数 18 (全 9 頁)

(21) 出願番号	特願平7-271014	(73) 特許権者	390009335
(22) 出願日	平成7年10月19日(1995.10.19)		ドクトル インジエニエール ハー ツエ
(65) 公開番号	特開平8-207677		ー エフ ポルシェ アクチエンゲゼルシ
(43) 公開日	平成8年8月13日(1996.8.13)		ヤフト
審査請求日	平成14年9月12日(2002.9.12)		Dr. Ing. h. c. F. Porsc
(31) 優先権主張番号	P4437687.1		e Aktiengesellscha
(32) 優先日	平成6年10月21日(1994.10.21)		ft
(33) 優先権主張国	ドイツ(DE)		ドイツ連邦共和国 シュツツトガルト ポ
(31) 優先権主張番号	19521862.0		ルシェブラッツ 1
(32) 優先日	平成7年6月16日(1995.6.16)	(74) 代理人	100061815
(33) 優先権主張国	ドイツ(DE)		弁理士 矢野 敏雄
		(74) 代理人	100094798
			弁理士 山崎 利臣
		(74) 代理人	230100044
			弁護士 ラインハルト・アインゼル
			最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 飾り兼カバーストリップのための固定装置

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

自動車上部構造物における間隙（３）のための飾り兼カバーストリップを固定するための固定装置であって、間隙（３）に挿入可能でかつ飾り兼カバーストリップ（５）を保持するクランプ可能な保持体（４）を有している形式のものにおいて、複数部分から成る保持体（４）が側部に緊定部分（６，７）を有しており、緊定部分（６，７）が、該緊定部分の間に設けられていて間隙（３）の長手方向において摺動可能な拡開部材（８）を用いて、間隙（３）の側壁（１４）に対して緊定可能であり、しかも拡開部材（８）に飾り兼カバーストリップ（５）が固定可能であることを特徴とする、飾り兼カバーストリップのための固定装置。

【請求項 2】

保持体（４）が３つの部分から構成されており、この場合拡開部材（８）が、側部における対称的な２つの緊定部分（６，７）の間に摺動可能に配置されている、請求項１記載の固定装置。

【請求項 3】

緊定部分（６，７）がくさび状に構成されており、同様にくさび状に構成された拡開部材（８）が、緊定部分（６，７）の内壁に対して平行に延びる外壁を有している、請求項１又は２記載の固定装置。

【請求項 4】

緊定部分（６，７）が製造状態において同一形状を有している、請求項１から３までのい

ずれか 1 項記載の固定装置。

【請求項 5】

緊定部分（6，7）がそれぞれ広い方の端面に、間隙（3）の長手方向に対して直角に延びるストッパ（11）を有しており、該ストッパ（11）が、対向して位置している緊定部分（6，7）の階段状の押込み成形部（12）と作用結合している、請求項 1 から 4 までのいずれか 1 項記載の固定装置。

【請求項 6】

側部の緊定部分（6，7）が長手方向に延びるスライドガイド（9，10）を介して中央の拡開部材（8）と共働する、請求項 1 から 5 までのいずれか 1 項記載の固定装置。

【請求項 7】

側部の緊定部分（6，7）が鳩尾状ガイド（10）を介して中央の拡開部材（8）と共働する、請求項 6 記載の固定装置。

【請求項 8】

スライドガイド（9，10）の範囲において、拡開部材（8）と隣接した緊定部分（6，7）との間に歯列が設けられている、請求項 6 又は 7 記載の固定装置。

【請求項 9】

スライドガイド（9，10）の範囲において、緊定部分（6，7）及び拡開部材（8）の共働する外側面が、粗面化もしくは浸食されている、請求項 6 又は 7 記載の固定装置。

【請求項 10】

拡開部材（8）に長手方向溝（13）が構成されており、該長手方向溝（13）に、飾り兼カバーストリップ（5）の成形された足区分が挿入可能である、請求項 1 記載の固定装置。

【請求項 11】

長手方向溝（13）内に、飾り兼カバーストリップ（5）を保持する付加的な受容部材が挿入可能である、請求項 10 記載の固定装置。

【請求項 12】

拡開部材（8）に差込み部（15）が構成されており、該差込み部（15）が、ルーフ通路底部（17）に接触していて、保持体（4）の下において雨水流出通路（16）を形成している、請求項 1 記載の固定装置。

【請求項 13】

両緊定部分（6，7）と拡開部材（8）と場合によっては飾り兼カバーストリップ（5）のための付加的な受容部材とが、間隙（3）への取付け前に、前組立てされた 1 つの構成ユニットを形成している、請求項 1 から 12 までのいずれか 1 項記載の固定装置。

【請求項 14】

拡開部材（8）に、上方に向かって突出したばね弾性的なスナップフック（21）が局部的に一体成形されており、該スナップフック（21）が、そのうえに位置している飾り兼カバーストリップ（5）と係止するように共働する、請求項 1 から 13 までのいずれか 1 項記載の固定装置。

【請求項 15】

飾り兼カバーストリップ（5）がアダプタ（23）を介して、拡開部材（8）において所定の位置に保持されている、請求項 1 から 14 までのいずれか 1 項記載の固定装置。

【請求項 16】

アダプタ（23）が飾り兼カバーストリップ（5）に挿入されており、アダプタ（23）と拡開部材（8）とがスナップ結合部（24）を介して共働する、請求項 15 記載の固定装置。

【請求項 17】

アダプタ（23）又は拡開部材（8）に、きのこ状部（25）が一体成形されていて、該きのこ状部（25）が、別の部材（拡開部材及び／又はアダプタ（23））の受容部（26）に後方から係止するように係合しており、しかもこの場合該受容部（26）が、きのこ状部（25）に比べて著しく大きな長さを有している、請求項 16 記載の固定装置。

10

20

30

40

50

【請求項 18】

アダプタ（23）が拡開部材（8）の上側面に載っている、請求項 15 記載の固定装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、自動車上部構造物における間隙のための飾り兼カバーストリップを固定するための固定装置であって、間隙に挿入可能でかつ飾り兼カバーストリップを保持するクランプ可能な保持体を有している形式のものに関する。

【0002】

【従来の技術】

10

ドイツ連邦共和国特許第 3 1 1 0 9 8 9 号明細書に基づいて公知のこのような形式の固定装置には、クランプ可能な保持体が設けられており、この保持体はメインルーフプレートとルーフサイドビームとの間の間隙に挿入されている。保持体はくさび状の部分から成っており、両くさび状部分は、斜めに延びる共通の分割面に沿って相対的にシフト可能であり、かつこの際に間隙の側壁においてくさび固定するようになっている。両くさび状部分の一方には、飾り兼カバーストリップを保持するための保持部が設けられている。

【0003】

この公知の固定装置には次のような欠点がある。すなわちこの公知の固定装置では、製作誤差に基づいて間隙幅に変動がある場合に、飾り兼カバーストリップ保持部が、一方の間隙側に向かってしか、つまり保持部を受容する部分が接触している間隙側に向かってしか、

20

コンスタントな間隔を有していない。したがってこの場合、間隙の長手方向に沿って飾り兼カバーストリップを中央で方向付けることは不可能である。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

ゆえに本発明の課題は、冒頭に述べた形式の固定装置を改良して、飾り兼カバーストリップの、製作誤差に基づく変動とは無関係に、常に中央において固定することができる固定装置を提供することである。

【0005】

さらにまた、固定装置は安価に製造可能で、迅速かつ簡単に取付け可能で、しかも確実に保持可能であることが望まれている。

30

【0006】

【課題を解決するための手段】

この課題を解決するために本発明の構成では、複数部分から成る保持体が側部に緊定部分を有しており、緊定部分が、該緊定部分の間に設けられていて間隙の長手方向において摺動可能な拡開部材を用いて、間隙の側壁に対して緊定可能であり、しかも拡開部材に飾り兼カバーストリップが固定可能であるようにした。

【0007】

本発明の別の有利な構成は、請求項 2 以下に記載されている。

【0008】

【発明の効果】

40

本発明のように構成されていることによって得られる大きな利点としては、次のことが挙げられる。すなわち本発明による固定装置では、安価に製造可能な保持体を迅速かつ確実に自動車ボディーに挿入することができ、しかもこの際に飾り兼カバーストリップを完全かつ確実に中央において固定することができる。

【0009】

自動車ボディーにおける典型的な間隙は、ルーフ間隙である。メインルーフプレートとルーフサイドビームとの間には、ルーフ全長にわたって延在するほぼ方形の間隙が構成されている。そしてこの間隙には、規定の間隔をおいていわゆる保持体が挿入され、この保持体は、間隙を覆うストリップのための長手方向溝を有している。この保持体は、例えば側部における緊定によってルーフ間隙内において固定されることができる。

50

【0010】

製作誤差に基づいて、間隙幅はその全長にわたって完全には等しくない。飾り兼カバーストリップのための長手方向溝が、保持体の、間隙壁に接触している部分に固定されている場合には、長手方向溝は間隙幅の変動に相応して、他方の間隙壁から変位する。飾り兼カバーストリップの長手方向溝が保持体において間隙幅とは無関係に常に正確に間隙中心に位置することを保証するために、保持体は複数部分から、つまり、飾り兼カバーストリップのための受容部を備えた中央に位置する部分と、この中央に位置する部分の傍らに対称的に配置されていて保持体を間隙壁に対して緊定する別の部分とから、成っている。この場合緊定動作は、くさび状の部材の押込みによって行うことができる。くさび角は次のように、すなわち部材もしくは部分のセルフロックが得られ、これによってこれらの部材も

10

【0011】

有利には、保持体は3つの部分から構成されており、この場合拡開部材は長手方向において摺動可能に、側部における対称的な2つの緊定部分の間に配置されている。このように構成されていることによって、拡開部材に固定された飾り兼カバーストリップを常にルーフ通路の中央に位置させることができる。

【0012】

本発明の別の構成では、緊定部分がそれぞれその広い方の端面に、間隙の長手方向に対して直角に延びるストッパを有しており、該ストッパが対向して位置する緊定部分の階段状の押込み成形部と作用結合している。これによって緊定部分の相対的な位置を一義的に決定することができる。

20

【0013】

本発明の別の構成では、側部の緊定部分が長手方向に延びるスライドガイドを介して中央の拡開部材と結合されており、このように構成されていることによって、個々の部分は相対的に摺動可能ではあるが、しかしながら分割不能になる。そしてこれによって3つの部分から成る保持体を1つの構成ユニットに前組立てすることができる。この構成ユニットは、前組立てされた後で、ルーフ間隙に挿入され、かつ長手方向において押し縮めることによってルーフ間隙内において緊定される。

【0014】

さらに、間隙底部に向かって延びる差込み部が、拡開部材の中央に設けられていると、保持体と間隙底部との間においてルーフ間隙に雨水流出のための通路を得ることができる。さらにこのような差込み部を設けることによって、ルーフ間隙に挿入されたすべての保持体が間隙底部から等しい間隔を有することが、保証される。

30

【0015】

間隙側壁に、ルーフ間隙の底部に向かって延びるアンダカットが設けられていると、ルーフ間隙における保持体の固定確実性を高めることができる。

【0016】

拡開部材における飾り兼カバーストリップの受容部は、飾り兼カバーストリップの構成に応じて、中心に設けることも又は中心からずらして設けることも可能である。この場合固定は、直接的に行うことも、又は例えば金属製の保持クランプのような付加的な受容部材を介在させて行うこともできる。受容部は例えば、深く形成された長手方向溝によって形成することも、又は上方に向かって突出した一体成形されたスナップフックによって形成することもできる。

40

【0017】

さらに別の有利な構成では、飾り兼カバーストリップがアダプタを介して、拡開部材において所定の位置に保持されている。この場合、アダプタが飾り兼カバーストリップに挿入されており、かつこの飾り兼カバーストリップと共に、前組立てされたユニットを形成しており、このユニットが保持体にスナップ結合される。

【0018】

50

【発明の実施の形態】

次に図面につき本発明の実施の形態を説明する。

【0019】

図1には自動車の一部が斜視図で示されており、メインルーフプレート1とルーフサイドビーム2との間には、ルーフ全長にわたって延びているルーフ間隙3が設けられている。図2には図1のI-I線に沿った断面図が示されており、この図2にはルーフ間隙3と該ルーフ間隙に挿入された保持体4とが横断面図で示されていて、この保持体4には飾り兼カバーストリップ5が固定されている。

【0020】

図2からさらに分かるように、ルーフ間隙3の側壁14は下方に向かってアンダカットされ、つまり下方に向かって幾分広がっており、これによって保持体4のクランプ作用を改善し、ひいては固定作用を高めることができる。拡開部材8は底部側に差込み部15を有しており、この差込み部15は保持体4の下に2つの自由通路16を形成していて、この自由通路16において雨水が流出可能である。さらにこの差込み部15によって、ルーフ間隙3に挿入されるすべての保持体4は、ルーフ間隙底部17から等しい間隔aを有することが保証される。

10

【0021】

保持体4の詳細は図3に示されている。保持体4は3つの部分から構成されている。つまり保持体4は、製造状態においては同一形状を有していて左右に配置されているくさび状の対称的な2つの緊定部分6、7と、中央に配置されていて両緊定部分の間において長手方向摺動可能なくさび状の1つの拡開部材8とから成っている。緊定部分6、7の間における拡開部材8の位置に応じて、両緊定部分6、7は多く又は少なく互いに押し離される。

20

【0022】

側部における緊定部分6、7は、例えばいわゆる鳩尾状ガイド10を用いて、長手方向に延びるスライドガイド9を介して中央の拡開部材8と結合されている。

【0023】

スライドガイド9の範囲には、拡開部材8とそれぞれ隣接した緊定部分6、7との間に、歯列（図示せず）が設けられていてもよい。しかしながらまた緊定部分6、7と緊定部材8との間における角度が相応に小さい場合には、両部分の間に粗面もしくは浸食面が設けられているだけで、緊定状態におけるセルフロックのために十分である。

30

【0024】

緊定部分6、7はその広い方の端面に、間隙3の長手方向に対して直角に延びるストッパ11を1つずつ有しており、このストッパ11は、対向して位置している緊定部分の階段状の押込み成形部12と作用結合している。これによって緊定部分6、7の相互の位置が一義的に確定され、この結果拡開部材8は常に両緊定部分6、7の間の中央に位置することになる。拡開部材8が長手方向において摺動すると、両緊定部分6、7は外方に向かって均一に移動させられ、この結果間隙3内部における拡開部材8の自動的なセンタリングが行われる。

【0025】

拡開部材8には長手方向溝13が設けられている。この長手方向溝13は中心に配置されていても、中心をずらして配置されていてもよい。飾り兼カバーストリップ5の保持は、直接的に長手方向溝13において行われる。長手方向溝13にはまた付加的に、飾り兼カバーストリップ5を保持する受容部材（図示せず）が挿入されていてもよい。

40

【0026】

図4には前組立てされた保持体4が示されており、この保持体4では緊定部分6、7が、鳩尾状ガイド10を用いて拡開部材8とスライド結合されて、該拡開部材8と共に1つの構成ユニットを形成している。この図4から、緊定部分6、7の階段状の押込み成形部12における相互の当接によって該緊定部分6、7を等しいポジションに保つ、ストッパ11の働きがはっきりと分かる。

50

【0027】

ルーフ間隙3への保持体4の取付け時には、図4に示されているような前組立てされた構成ユニットがルーフ間隙3に挿入され、工具を用いて端面を押圧される。この結果拡開部材8は緊張部分6, 7の間に押し込まれ、緊張部分6, 7はルーフ間隙3の側壁14に対して緊張させられ、これによって保持体4をルーフ間隙3内において固定する。次いで、長手方向溝13内に飾り兼カバーストリップ5が固定される。

【0028】

図2に示されているように、飾り兼カバーストリップ5はその両側縁部に、差し嵌められたシールストリップ18を備えており、このシールストリップはそれぞれ各1つの受容区分19とシールリップ20とを有している。

10

【0029】

必要とあらば緊定部分6, 7の表面に、図示されていない歯列又は刻み目が設けられていてもよく、この歯列又は刻み目は、シールストリップの隣接する受容区分19の下面と作用結合している。

【0030】

図5及び図6には保持体4の第2実施例が示されており、この場合保持体4は同様に側部における2つの緊定部分6, 7と中央における1つの拡開部材8とから成っている。この実施例が異なっているのは、単に飾り兼カバーストリップ5の保持部の構成だけである。

【0031】

図5及び図6に示されているように、拡開部材8には長手方向溝13の代わりに、局部的に、上方に向かって突出したスナップフック21が一体成形されており、これらのスナップフック21は、飾り兼カバーストリップ5のアンダカットされた縁部範囲22と係止すべく共働する。スナップフック21は横方向においてばね弾性的に構成されている。

20

【0032】

図5には、飾り兼カバーストリップ5を固定するために4つのスナップフック21が設けられている。しかしながらまた、それよりも多くの又はそれよりも少ないスナップフック21を拡開部材8に配置することが可能である。

【0033】

保持体4の第3実施例は図7及び図8に示されている。

【0034】

この保持体4もまた同様に、側部における2つの緊定部分6, 7と中央における1つの拡開部材8とから成っている。飾り兼カバーストリップ5の保持はこの場合、直接拡開部材8において行われるのではなく、アダプタ23（中間部材）を介して行われる。アダプタ23は飾り兼カバーストリップ5に挿入されている。これはスナップ結合又は側部からの押込みによって行われる。

30

【0035】

図8に示されているように、アダプタ23は形状嵌合によって、該アダプタを取り囲む飾り兼カバーストリップ5と共働する。保持体4の組立て時に飾り兼カバーストリップ5は、挿入されたアダプタ23と一緒に、前組立てされた構成ユニットを形成する。

【0036】

各アダプタ23はスナップ結合部24を介して対応する拡開部材8と共働する。

40

【0037】

スナップ結合部24は、一体成形された突出するきのこ状部25と該きのこ状部に対応する受容部26とから成っている。

【0038】

図示の実施例ではきのこ状部25は、拡開部材8の上側面から上に構成されており、これに対して受容部26はアダプタ23に設けられている。受容部26は、成形された2つのウェブ27, 28によって形成されており、両ウェブ27, 28は互いに間隔をおいてほぼ方形のアダプタ23に構成されている。この場合長手方向に延びるウェブ27, 28は、アダプタ23の外側の長い壁区分に対して間隔をおいて延びており、かつ横方向に延び

50

る短い壁区分に接続されている。

【0039】

図7に示されているように受容部26は、きのこ状部25の長さBよりも著しく大きな長さを有している（製作誤差補償）。きのこ状部25はしかしながらまたアダプタ23の下側面に一体成形されていてもよく、受容部26は拡開部材8に構成されていてもよい。

【0040】

アダプタ8は、飾り兼カバーストリップが取り付けられた場合には、その下に位置している拡開部材8の上側面に部分的に接触している。

【0041】

本発明による保持体4の構成は、ルーフ間隙に制限されるものではなく、自動車における任意の間隙において使用することが可能である。 10

【図面の簡単な説明】

【図1】ルーフ間隙を備えた自動車の側部を示す斜視図である。

【図2】図1のI I－I I線に沿ったルーフ間隙の断面図である。

【図3】保持体を分解して示す図である。

【図4】前組立てされた保持体の挿入準備状態を示す図である。

【図5】保持体の第2実施例を示す分解図である。

【図6】図5に示された保持体を、一体成形されたスナップフックの範囲において断面して示す図である。

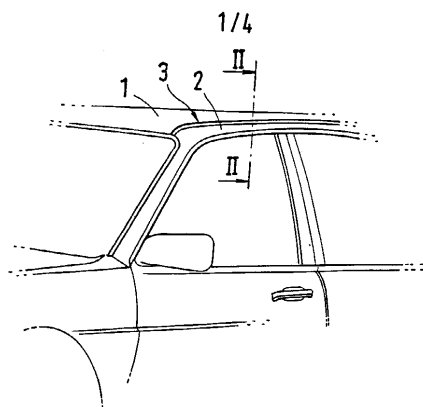
【図7】保持体の第3実施例を示す断面図である。 20

【図8】図7に示された保持体を、アダプタと飾り兼カバーストリップとの間におけるクリップ結合部の範囲において断面して示す図である。

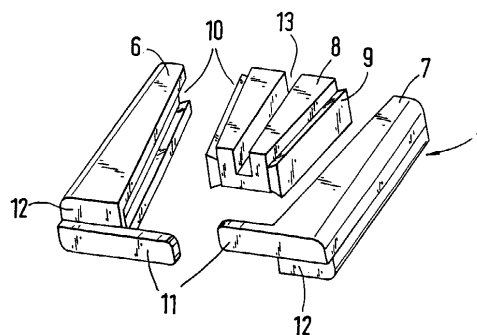
【符号の説明】

1 メインルーフプレート、 2 ルーフサイドビーム、 3 ルーフ間隙、 4 保持体、 5 飾り兼カバーストリップ、 6, 7 緊定部分、 8 拡開部材、 9 スライドガイド、 10 鳩尾状ガイド、 11 ストップバ、 12 押込み成形部、 13 長手方向溝、 15 差込み部材、 16 自由通路、 17 ルーフ間隙底部、 18 シールストリップ、 19 受容区分、 20 シールリップ、 21 スナップフック、 22 縁部範囲、 23 アダプタ、 24 スナップ結合部、 25 きのこ状部、 26 アダプタ、 27, 28 ウェブ 30

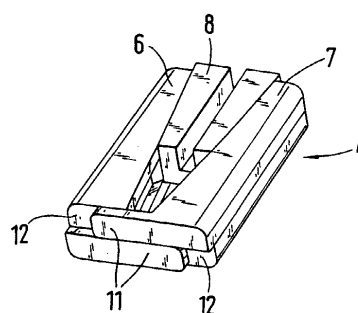
【図 1】



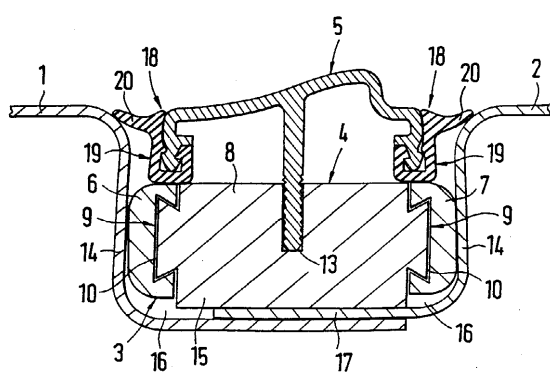
【図 3】



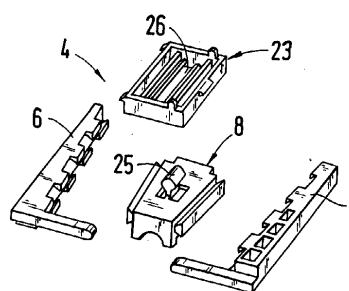
【图 4】



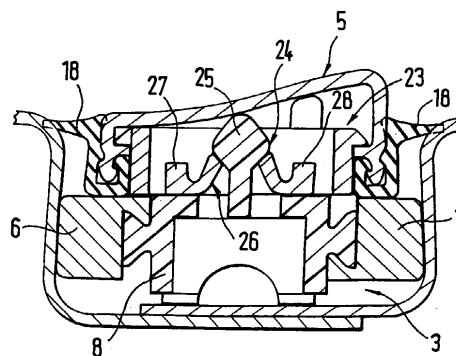
【図 2】



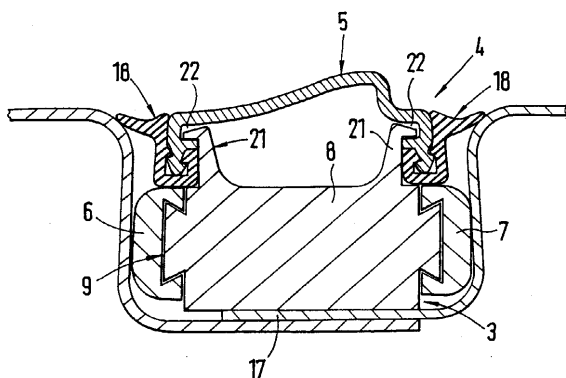
【图 7】



【 図 8 】



【图 6】



フロントページの続き

(72)発明者 クラウス プフィスター
ドイツ連邦共和国 マウルブロン ケルナーシュトラッセ 12

審査官 島田 信一

(56)参考文献 実開平05-054099 (JP, U)
実開平01-154048 (JP, U)

(58)調査した分野(Int.Cl.⁷, DB名)
B60R 13/04